

目指す学校像	あらゆる教育活動をととして、人に親切に、人を思いやる心を常に持ち、国内及び国際社会に貢献できる生徒を育成
--------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 進学校としての躍進（NEXT NEW STAGE 川北） —満足度の高い進路希望の実現— 2 生徒の志をかなえる授業・補講の充実 3 開かれた学校づくりの推進（中学校・地域へ積極的な情報発信）
------	---

出席者	学校関係者	5名
	生徒	0名
	事務局（教職員）	6名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価（1月25日現在）		
年度目標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	本校では、これまでも進路指導の工夫・改善に取り組んできた。 ○その結果、平成21年度進路実績では、最難関校の早・慶・上・理、GMARCHの現役合格率が過去最高となった。 ○今後とも、この結果を発展させ、現役全員合格を目指す。	○組織的な進学指導の実践	① 各学年の模試データやセンター試験データ等の全教職員による共有化。 ② 国公立大学との高大連携による向学心と進路意識の醸成。 ③ 進路実績と部活動実績の向上を目指した文武両道の指導	① 現役進路実現100%（大学84.6%短大2.2%、専門4.5% 計91.3%） ② 卒業時の進路先満足度80%（78.1%） ③ 国公立大学のチャレンジ数80/321 25%（72/357 20.2%） ④ 部活動の加入率95%以上（92.1%） ※（）内は昨年度	○懸案であった全進学希望者に対する大学受験検討会を3学年で実施でき、指導の共有化を図ることができた。 ○大学出張講義には15回中13回に生徒を参加させることができた。また、彩の国7がみには1名が参加し単位取得できた。 ○長期休業中の部活動単位の自習室活用をシステム化し、勉学と部活動両立の環境を整備したことで、ほとんどの部活動の活用が図れた。 ○部活動加入率は95%の目標には届かなかったものの、昨年を上回る93.2%に高めることができた。	B	○大学受験検討会を前期の早い時期に実施及び、回数を増やすとともに教科も含めた形でのより効果的な在り方へ発展する必要がある。 ○大学出張講義への参加回数に比べ1回の参加人数は少数にとどまっている。今後意義等を広く生徒に指導することが重要である。 ○自習室の整備は大幅に進んだが、卒業生や校外指導者の活用を図るKAWAKITAサポート事業の活用をより一層進めたい。
2	平成21年度は、補講の講座数及び参加生徒数の増、家庭学習時間の増も見られた。 ○今後とも、補講・家庭学習のより一層の充実を図る。 ○長期休業中の補講の工夫・改善に取り組んでいく。	○授業改善と進学補講の充実	① 授業公開による研究協議の実施 ② 適切な課題学習の提供 ③ ニーズに応える進学補講の実施 ④ 65分授業の課題解決に向けた55分授業の検討	① 全教科による研究協議の実施（新規） ② 生徒の授業以外の学習時間の増加 1年次平均120分（1年次平日平均87.6分） ③ アンケートによる生徒の補講に対する満足度（新規） ④ 5日制、33単位確保 ※（）内は昨年度	○授業公開期間に併せた公開授業と研究協議をすべての教科で実施することができた。また、後期には授業時間内に教科会を組み込むなど教科研究の時間確保を図ることができた。 ○始業前朝学習の指導や土曜補講への取組を組織的に行い、土曜補講では1年生は全員、2年生は2/3の生徒を参加させることができた。また、家庭学習時間は2年生で昨年度を20分近く上回る82.5分にまで増加させることができた。 ○月から金曜日までで33単位を確保する55分授業導入に向けて全教科代表による先進校視察と報告会を実施するとともに、時間割のシミュレーションを実施し課題を整理することができた。	A	○教科ごとの授業公開、研究授業をさらに発展させ、他教科との交流をより一層進め、一教科にとどまらない総合的な授業力向上が今後の課題である。 ○朝の課題学習や土曜補講への組織的な取組の体制づくりをより一層進め、生徒自らが主体的に取り組む指導へ発展させる必要がある。 ○埼玉県初となる55分授業の導入が、学校全体の教育活動をよりよい方向へ改善させる見直しの機会となるよう、教職員や生徒の意識改革を図っていく必要がある。
3	本校では、ホームページ等を通じて、新たな情報を更新し、発信してきた。 ○今後は、さらなる充実を図るとともに、近隣各中学校とのネットワークを構築し、積極的な情報発信に取り組んでいく。	○中学校・地域への積極的な情報発信	① タイムリーな情報発信 ② 地域の中学校への学校情報のメール発信 ③ 校外大規模施設を利用した学校説明会の実施	① ホームページのアクセス数25万（23万） ② 学校情報の発信回数（新規） ③ 学校説明会等への来場数2割増（延べ来校者数4000人） ※（）内は昨年度	○ホームページによる学校の最新情報の更新は週1回以上の割合で実施でき、アクセス数も12月時点で22万件を超えた。 ○近隣11市の教育委員会と140中学校への電子メールによる学校情報発信は21回を数え、本校に対する理解を広めることができた。 ○校外大規模施設リリアを利用した本校初の学校説明会を実施した他、授業公開や学校公開、進学フェア等で昨年を大きく上回る8,088名の参加者を集めることができた。また、在校生や卒業生、保護者を交えた説明会は参加者から高い評価を受けることができた。	A	○ホームページへのアクセス数は新型インフルエンザ騒動があった昨年度の急激な増加を除くと、今年度は着実に増加している。今後もさらに効果的な情報公開を工夫改善したい。また、中学校へのメールによる学校情報発信先を在校生の出身中学校まで拡大するため、現在14市158校への配信の準備を始めており本校の教育活動に対する理解をさらに広げたい。 ○学校説明会や学校公開、授業公開では、在校生や卒業生を交えて本校の教育活動をさらに効果的に説明できるよう工夫改善を図りたい

学校関係者評価	
実施日	平成23年 1月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○これは感想だが、教職員がとてもよく取り組んでいると思う。 ○勉強マラソンなどは集団の雰囲気作りに効果があり、各学年で取り組んでいる行事なので、北高の特色になればよい。また、夏休み中の部活動単位で自習室を確保できるように環境整備した取組はとても良い。 ○組織的な進学指導の実践の評価は、現時点では結果が出ていないのでBであるが、結果がでたらA評価に変更しても良いと思う。	
○新しい取組にも積極的であり、成果を上げている。教職員の頑張りにより生徒が応え、保護者が協力していることは素晴らしい。 ○勉強だけでなく、コミュニケーション能力を育てることも大切である。声を出し挨拶することはその基本である。毎朝、家庭内で挨拶することも方策の一つである。また、教職員同士が挨拶することは生徒への影響も大きい。学校内でしっかり声を出し挨拶する指導を推進して欲しい。 ○3学年のシステムシートにある評価項目「教科指導の工夫および改善」の評価はBではなく、Aで良いと思う。	
○ホームページやメールによる様々な学校情報発信を行っており評価できる。特に、先生方の積極的な取り組みには敬意を表したい。また、その熱意に応えている生徒やそれを支援している保護者の方々の姿勢も素晴らしいものがある。さらに、応援、支援したくなる。 ○学校説明会や学校公開などで、PTAの相談ブースなども設けても良いのではないかと。保護者の立場から学校公開の日は、受付などで学校のPRに協力したい。	